

アカアシシギ

Tringa totanus (Linnaeus)
チドリ目・シギ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧II類 旧：県域絶滅危惧II類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧II類

選定理由

北海道東部の海岸湿地で繁殖し、環境省のレッドリストでは絶滅危惧II類に選定されている。本県では稀な旅鳥として、水田や砂泥地が中継地として利用されており、国の基準に準拠した。

種の特徴

全長 27.5 cm。頭～体の上面は灰褐色で、軸斑や横斑がある。嘴は先が黒くて基部が赤く、足は赤い。干潟や開けた湿っぽい草原に棲み、水路や砂泥地を歩きながら軟体動物や甲殻類を食べる。

分布

少数が北海道東部の海岸湿地で繁殖するほかは、旅鳥として全国の干潟や水田等に飛来する。本県では主に秋季に、九頭竜川下流域や久々子湖周辺の水田等で、数回の記録がある。

生息を脅かす要因

本種が飛来する河川や湖沼に近い水田は、乾田化や湛水休耕田の減少により、生息環境が急激に悪化している。湛水休耕田の配置、田植え 1か月前や稻刈り後の湛水等の中継地確保のための対策と効果測定調査が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県自然環境保全調査研究会（1999）、福井県（2002）、中村・中村（1995）、大西・真木（2000）、高野（2015）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○											○					

ハチクマ

Pernis ptilorhynchus (Temminck)
タカ目・タカ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧II類 旧：県域絶滅危惧II類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

県内の里山に生息しているが、個体数は決して多くなく、既知の生息地は数箇所しかない。本県には本種が好む里山環境が少なく、個体群サイズが小さく限定されていると推察される。既知の生息地での過去の繁殖成功率は 50% を超えていたが、近年は減少傾向にある。

種の特徴

全長 57 ~ 61 cm、翼開長 121 ~ 135 cm、トビより少し小さい猛禽類で、雌の方が雄より少し大きい。色彩には変異が多い。名前のとおりハチの幼虫や蛹を好み、地面を掘り起こして蜂の巣を取り出す。ハチ以外には、両生・爬虫類、鳥類の雛、昆虫類も食べる。

分布

夏鳥として九州以北の低山の林に渡来し繁殖する。本県では里山の一部に生息しているが、5月と 9 月の渡り期に、数羽～数十羽の群れで移動するのをみかける場合が多い。

生息を脅かす要因

生息及び繁殖のためには、多様なハチ類を育む森林生態系を必要とする。また、繁殖期の営巣地付近への人の接近は繁殖行動を阻害するため、森林施業や土木工事の時期には配慮が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県自然環境保全調査研究会（1999）、福井県（2002）、高野（2015）、中村・中村（1995）、久野（2015）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○					○		○	○			○	○	○	○	○	

チュウヒ

Circus spilonotus Kaup
タカ目・タカ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧II類 旧：県域絶滅危惧II類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧IB類

選定理由

非繁殖期には、毎年安定して飛来記録があるが、繁殖期の記録は少なく、繁殖記録はまだない。河川敷の改変等で生息環境は悪化しており、絶滅の危険度は増大している。

分布

北海道と本州の広いヨシ原がある湿地で局地的に繁殖するが、多くは冬鳥として渡来する。本県では、九頭竜川の河川敷、三方五湖や北潟湖の周辺で目撃されるが、数は少ない。

生息を脅かす要因

本種は面的な広がりのあるヨシ原という特異的な環境に好んで生息するが、このような環境は、九頭竜川下流部の河川敷等に限られている上に面積も小さいため、河川や湖沼の周辺にあるヨシ原は、保全する必要がある。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県自然環境保全調査研究会（1999）、福井県（2002）、高野（2015）、中村・中村（1995）、平野（2010）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○								○			○	○	○	○		○